

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム 城山の杜2丁目

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392900031		
法人名	株式会社 信樹会		
事業所名	グループホーム 城山の杜2丁目		
所在地	〒028-1131 岩手県上閉伊郡大槌町大槌15-5-1		
自己評価作成日	令和6年10月17日	評価結果市町村受理日	令和6年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

三陸自動車道の大槌ICが近くに有り、スーパーや小中高等学校、幼稚園、かかりつけ医も近く立地と利便性の良い所に入居者様がその人らしく安心して穏やかに過ごせるよう役割を持ち、共に暮らす仲間として喜怒哀楽を表現し助け合っ生活している日常が有ります。スタッフ一同運営理念に有る【支え合う優しさと笑顔あふれる幸せな人生】を送って頂ける様、楽しく暮らせる様、支援しています。ご家族と途切れる事が無い様に毎月、近況や足りなくなった物を報告し共に支える関係作りを行っています。日中、勤務している方が多い為にメール等で遣り取りを行い、体調不良時は密に連絡し、ご家族の不安を和らげる様に配慮しています。「ここで生活して良かった」と思える支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットのグループホームであり、それぞれに1日を過ごし、職員も基本的にはユニット単位で活動している。避難訓練や夕涼み会、敬老会などの行事や運営推進会議は合同で行っている。コロナ禍で運動不足や外出の機会が少なくなったこともあり、利用者の心身の低下を防ごうと午前、午後のレク活動に取り組み始めている。地域との交流を増やしたいと、幼稚園に声がけをして事業所で初めて歌やダンスを披露してもらうことになっている。町で運営している認知症カフェにも利用者と一緒に参加したいと考えており、今後地域とのつながりの深まりが期待される。利用者の幸せを意識し、希望することを叶えたいと、それぞれに合わせた支援に心を配る職員に支えられ、利用者は穏やかに暮らしている。利用者の健康管理面では、看護師が24時間体制で配置され、加えて看取りにも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム 城山の杜2丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ室、各丁目入口上部に掲示している。入居者の生活がより良いものになる様、職員で共有出来ている。	2年前に見直した理念とそれを具体化した運営目標を意識しながら、職員は利用者の希望を実現出来るよう努めている。ケアプランには利用者、家族の思いが反映され、その人らしさを計画的に支援している。運営目標の評価が難しいと感じており、今後は達成度を評価できる具体的な年度目標を作りたいと検討中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ流行時期にもより交流が困難な状況もあるが事業所判断でボランティアや地域のキッチンカー、訪問理容、訪問美容、お祭り門打ちに来所して頂き、交流を図っている。	大槌祭りの虎舞を玄関先で披露していただき、利用者の中には喜んで涙を流す方もあった。夕涼み会や敬老会には地域の方がフラダンスを披露していただいている。傾聴ボランティアは毎月2名ずつ来所され、利用者の話をじっくりと聞いてくれている。また、職場体験で中学生の受け入れも行っている。近所の方から野菜や新聞紙などの提供も受けている。	地域との繋がりを更に強めたいと考え、近くの幼稚園に声掛けをして園児に歌や踊りを披露していただこうとしている。今後は認知症カフェに利用者職員が出かけながら、認知症ケアの拠点としての活動にも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して入居者の状況等を報告しアドバイスを頂きながら活かす事が出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回の運営推進会議では入居者の様子、事故報告、病院受診内容、入退去状況等を報告し質問や意見を頂き、実践に取り入れている。	運営推進会議を2か月に1回、職員、利用者、家族、地域住民代表者等が構成員となり、ダイルームで開催している。事業所や利用者の様子を詳しく知っていただくこと、生活の様子や感染症の様子、ヒヤリハット報告など細かな資料を準備して望んでいる。事業所が地域と深く繋がるための情報収集や災害時の支援体制の確保に向けて協力をお願いしていきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室が出た際は紹介を頂いたり、困難事例の相談、感染症発生報告等、その都度連絡と報告を実施している。防災対策については協議を継続している。	地域ケア会議に出席し地域の関係者と情報交換している。生活保護担当とは電話で連絡を取り合い、町とは要介護認定申請やその調査等についての連絡も行なっている。感染症対策や防災対策においても、各担当者と連絡を取り合っている。身元引受人や親子関係等については、地域包括支援センターに相談している。台風等の災害情報は町から電話で受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会を開催し協議し、再確認を行っている。離設の恐れのある方の対応は見守り、ドアブザー、パイプチャイム等を使用し施錠しないケアを実践している。過剰投与による拘束や点滴処置時により拘束も行っていない。	身体拘束に関する委員会を3ヵ月毎に開催し、拘束の有無を確認し、また具体例をもとにそれが身体拘束にあたるかを検討している。無断で施設外に出てしまう恐れのある利用者については、行動パターンを観察して対策を考えるとともに、付き添って散歩に出かけるなどしている。利用者の意向にすぐ応えることができない場合には、その理由を説明したりあと5分待ってくださいと伝えている。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や委員会を通して学習する機会はある。防止に向けた研修実施、スピーチロック等無い様に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加職員が研修報告書を作成し回覧。全体研修会で研修内容を報告。主にケアマネがこの制度を活用しており、介護職員で詳しく内容を理解出来ていない職員も居るとの事で、今後は研修参加を積極的に行っていく予定で有る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し理解と納得が得られる様に努めて困っている事や不安な事が無いかを確認し、いつでも相談に乗れる事を説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とは時間を掛け、意見、要望を聞き早急に対応、共有する様に努めている。ご家族の方は面会時や介護計画書作成時に伺っている。	家族には城山通信を毎月送り、併せて利用者の様子や必要となっている物などをお知らせしている。メールでお知らせした内容への問い合わせを受けることもある。共有空間のテレビの高さが低いと利用者から要望があり、テレビ台を購入し直したこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議等で意見や提案を反映出来る様に努めている。	管理者は、毎月の両ユニットによる全体会議やユニット会議で職員から意見を聞いている。会議では、ケアの在り方や飲み込みが難しい利用者の食形態などを協議している。パソコンの増設や職員の資格取得費用の支援も具体化されている。勤務内容についての相談は、管理者が受けて社長に伝えている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜2丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた費用は事業所負担にする事で向上心を持てる様に努めている。職員が心身共にリフレッシュ出来るように、リフレッシュ休暇を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修の年間計画を作成して知識を高める様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルス第5類後に少しずつでは有るが外部研修を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の安心、安全を第一とし不安なく暮らせる様にたくさん会話し、信頼関係を構築し想いを引き出せる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	提供すべきサービスを説明し納得頂いた上での支援を行い、信頼関係を構築出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を聞きご本人に必要な支援が受けられる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や調理をご一緒に行い、まだまだ出来るという喜びを感じて貰える様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と疎遠になる事が無い様に出来る範囲で通院は極力、ご家族にお願いし面会や、関わる機会が作れる様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症発生が無い限り面会可能となっており、玄関先では有るが顔を見て接する機会を設けている。ご家族様が行きつけの美容院や外食に連れて行っている方はいる	現在、家族との玄関先での面会は可能としている。今まで通っていた美容院に家族に連れて行ってもらったり、買い物に出かけたりする利用者が数名いる。馴染みの近所の方が服を買って訪ねてくれたこともある。事業所の近くの家のお花を眺めながら、親しくなった住人の方と話を楽しんだりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が楽しく安心してコミュニケーションが取れる様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望や相談があれば対応出来る体制に有る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションにより考えや思いに添っての対応に努めている。表情や行動の変化にも注意を払っている。	居室担当は居室の整理や足りない物の把握をして家族に連絡をしている。どの職員も利用者の話を聞くため1対1で過ごせる時間を作るようにしている。自宅に帰りたい、おいしいものを食べたい等の話をじっくり伺い、介護に活かしている。意向の表出が難しい方には行動や表情の変化から推し測るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前アセスメントを参考に職員へ情報共有し、把握してこれ迄の生活に近づける様に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回の申し送りで体調や当日の様子を確認している。毎日のバイタル測定、食事と水分量、排泄、体重測定等、健康状態を把握している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜2丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員だけでなく全職員と意見を交わして、他方面からの目線をご本人の想いを添えるかを検討している。職員の意見、アイデアは否定せず反映出来る様に努めている。	本人、家族の意向を丁寧に汲み取って介護計画に反映しており、動きのあるプランとなっている。居室担当や看護師、計画作成担当者等で担当者会議を行い、モニタリングをもとに計画を作成している。本人、家族に直接説明し、家族の来訪が難しい場合には郵送している。計画の見直しは、6か月ごとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	I-PADの申し送りだけでなく常に目に入る様にメモ書きを使用し、共有と工夫に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に合わせて短時間のお試しや工夫する事でより良いサービス提供を出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容、美容、傾聴ボランティア、おやつ訪問販売、ダンス鑑賞を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族の希望が有れば主治医を変更せず対応できている。囑託医はいつでも連絡、相談出来る為、関係は良好で有り、2週間に1回往診を行い入居者状況把握が出来ている。	3名の利用者は今までのかかりつけ医を受診している。他の方は入居時に本人、家族の同意を得て近くの医療機関に主治医を変更している。薬は看護師が近くの薬局まで取りに行っている。主治医には看護師を通じてバイタル等の必要なことを伝え、家族にはメール等で結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	休日や夜間の不在時でも体調不良の方が居た場合、いつでも連絡し指示を仰いでいる。また普段の会話の中で相談や確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必要時、病院との連絡がスムーズに取れ関係は良好。カンファレンスを行い家族やご本人が安心して帰所出来る様に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の意向を契約時に聞き取りし実際になった場合は、再度確認している。看取りを希望された場合、当ホームで出来る事と出来ない事を十分に説明し少しの変化もメールや電話で伝えて共有し、安らかに過ごせる様に支援している。	重度化した場合における対応の指針を作成しており、入居時に本人、家族等に説明している。点滴、経管栄養、吸痰等の処置が常時必要な状態になった場合には事業所での看取りは難しいと考えているが、それ以外であれば支援しており、職員である看護師も24時間待機態勢で臨んでいる。昨年3人の方の看取りを行っている。職員の精神的負担軽減に向けた内部研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応、救急車対応は各丁目に紙面とスタッフルームに掲示している。実際にあたる場面は少ないので研修のみだけでなく日頃から再確認していく必要が有る。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画・避難計画・BCPマニュアル・簡易マニュアルを作成し避難訓練、夜間想定訓練、風水害訓練を実施している。以前は近隣方々が参加していたが高齢になり参加出来なくなっている。	ハザードマップ上で津波や洪水の浸水想定区域とはなっていないが、土砂災害警戒区域となっており、風水害避難訓練として避難時の持ち物を準備し避難先まで車で避難している。初夏には消防署立会いで火災避難訓練を行っている。近くの方が利用者の見守り役として協力している。発電機や反射式ストーブ、カセットコンロ、3日分の非常食等を備蓄し、防災委員会がチェックを行っている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定的な言葉、スピーチロックを行わない様に心掛けています。入浴時や排泄時は介助する時以外はその場から離れる等配慮している。自分で出来る方には口腔ケア、服薬等は逐一声掛けはせず、見守りを行い本人のペースで行って頂いている。	利用者に否定的な言葉を使ったり、スピーチロックがないように心がけている。排泄が自立している利用者は鍵をかけて用足することも多く、職員は戸の前で待つようにしている。書類等は利用者の目の届かないところで保管し、契約書等の書類は事務室で保管している。	
----	------	--	--	--	--

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム 城山の杜2丁目

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る様な声掛けや本人の思いや希望を表しやすい様にコミュニケーションを取る事に努めている。他者の前では言いづらい事は個別に聞き取りを行い自己決定出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを尊重しながら業務の見直しを図り入居者と過ごす時間を作り希望に沿った暮らしが出来る様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容、訪問理容が来所したり行きつけの美容院が有る方は出かけている。男性の方は起床時に髭剃りの声掛けを行っている。敬老会や外出時は普段と違うおしゃれをして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や郷土料理、行事食、誕生日等いつもの違いを感じて頂き、楽しみになる様、工夫している。米研ぎ、盛り付け、食事の下ごしらえ、片付けを一緒に行っている。	調理委員会で作った献立を参考にしながら調理している。利用者は米とぎや野菜の皮むき、盛り付け、食器洗い、拭きなど行っている。茶碗や箸、湯呑等の食器は利用者の持ち込みとなっている。栗や松茸、トウモロコシや山菜等旬の物を取り入れた食事や誕生会に希望の物を皆で食べたり、夕涼み会にはキッチンカーでおやつを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録に残している。水分をなかなか摂取しない方は預り金で飲みたい飲料を購入し、少しでも水分摂取して貰える様に対応している。個々の状態に応じ刻み食、ミキサー食、小盛り等対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け、見守り、介助にて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗が少なくなる様に排泄チャック表を活かし声掛け、誘導を行い出来る事はご自分で行って頂き、自立に向けた支援を実施している。	利用者の状態に合わせてズボンの上げ下げを手伝ったり、尿取り等の汚れの確認と交換をお手伝いしたりしている。便秘予防の為、体操や散歩、廊下を歩くなど身体を動かしたり、朝牛乳を飲むようにしている。観察の上で処方された下剤を飲んでいただくこともある。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜2丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操や水分摂取量に注意しながら薬に依存しない様になっている。苦痛等の症状が有る場合は下剤にて対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は確定しているが体調や気分に応じて臨機応変に対応している。順番は関係性を考慮して組み合わせをしている。	週に2回、月～金曜日の午後を基本に入浴できるようにしているが、希望があればそれ以上に入浴できる。利用者同士での入浴も可能であり、ゆったりと湯舟につかりたい方には職員は脱衣所で待つなど、ゆったりと入れるように気遣っている。異性介助が嫌な方や濡れた床マットをその都度替えるなどの配慮も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に傾眠が有る際は臥床休息して頂いている。夜間、眠れない方は傾聴し安心して眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬の一覧が個別ファイルにいつでも確認出来る様になっている。誤薬が無い様に職員間でチェック確認しあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的な家事に協力して頂き、その際に会話や傾聴を行い、楽しみながら出来る様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所として面会制限をかける時もあるが、面会再開になれば家族との外出・外泊が可能となり数名の方は外出している。事業所周辺の散歩や花の水かけ等の屋外に出る機会を設ける様に努めている。	中庭に植えた花や野菜に水遣りをしたり、誘い合って散歩し、季節には桜や紅葉を見にドライブし、わらび採りにも出かけている。ドライブ帰りに外食を楽しむこともある。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜2丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様が管理されている方も居るが殆どの方が事務所にて管理して、必要物は聞き取りして購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	帰宅願望等の不穩に繋がらなければいつでも希望に応じる体制は有る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎にレク活動で作製した飾り付けを行い、季節を感じて貰える様に支援し、整理整頓にも心掛け気持ち良く過ごせる様に支援している。	1丁目と2丁目はホールの壁で仕切られており、ユニットごとに過ごしている。室内は明るく、エアコン、加湿器が設置され快適な温度である。壁面には利用者手作りの葡萄やきのこ、菊の花などがきれいに飾られ、季節感が感じられる。軒下には干し柿がつるされ、中庭には、ミニトマトや青じそ、ネギなどの野菜や花が育てられている。モップ掛けや玄関掃きは利用者も一緒に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替えを行う事で気の合う同士の空間作り、ソファで独りでくつろげる空間も有る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様にとって大切な物、長年使用してきた物を持参して頂き、安心して穏やかな生活が送れる様になっている。	居室には洗面台とクローゼット、エアコンが備え付けられている。利用者は、レンタルベッド、椅子、衣装ケース、テレビ、位牌等を持ち込んでいる。室内の配置は利用者と相談の上で決めており、植物の鉢を置いたり、手作りの梔の作品等を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・居室に理解出来る様に掲示をして有る。出来ない決めつけずに如何すれば出来るか如何言えば理解出来るか日々工夫して支援している。		